

域活動を目的とした外出が少ないことが、女性は目的を問わず1週間の外出頻度が少ないことが、主観的健康感が低いことと関連していた。

P3-35.

脊椎外科における術後早期再手術と医療安全

(整形外科)

○遠藤 健司、松岡 佑嗣、高松太一郎
村田 寿馬、関 健、上原 太郎
鈴木 秀和、栗飯原孝人、西村 浩輔
山本 謙吾

【はじめに】 脊椎外科における周術期合併症は、5%から9%に発生し (JNS2016, JSR 2013)、永続的障害を残すことがあるため、その予防と対策は重要である。近年、医療安全に関する社会的関心が高まる中、各診療場面における医療安全の客観的医学データを構築することが望まれる。今回、周術期に複数回手術が必要となった症例を検討し、脊椎外科における医療安全と当科の取り組みについて報告する。

【対象、方法】 対象は2012年から2017年まで行われた脊椎手術1,455例(平均242.5例/年)男性845例、女性570例、平均年齢61.1±16.6歳で、計画的複数回手術を除き、術後2か月以内に再手術を行った症例を検討した。

【結果】 2012年から2017年までの術後周術期再手術は、39例(2.7%)で男性10例、女性29例、平均年齢63.8±15.9歳であった。内訳は感染25例(1.7%)、血腫5例(0.3%)、髄液漏5例(0.3%)、スクリュー脱転2例(0.3%)、早期隣接椎間障害2例(0.3%)であった。

【考察】 脊椎周術期合併症の中でも、早期再手術を要する原因は、感染、血腫などによる神経障害発生に関与する要因が多かった。米国における調査では、腰椎術後合併症による30日以内の予期せぬ再入院の発生は、4.4%で創部感染が多かったとの報告があるが (Spine 2014)、当科においても創部深部感染が多く、感染に対する対策が特に重要であると考えられた。また、スクリュー脱転の原因として現在使用しているX線透視機器での操作の限界がありナビゲーションシステムの早期導入が望まれる。合併症に関する学会発表、論文作成の他、医療安全向上

の対策として2017年より、科内グループ間の相互手術監査、術前のリスク評価、インシデント発生後のカンファ、多施設での脊椎専門家による医療安全カンファを開始した。

P3-36.

eポートフォリオを用いた全科共通臨床実習日誌の活用状況について

(医学教育学)

○油川ひとみ、Breugelmans Raoul
(医学教育推進センター)
山科 章、三苫 博
(耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
清水 顕

【背景と目的】 eポートフォリオを臨床実習の日誌として平成27年4月より医学科第5学年の臨床実習において、振り返りと教員からのフィードバックを行う活動を開始した。当初は、循環器内科学、産科婦人科学、救急・災害医学の3診療科のみであったが、翌年には耳鼻咽喉科・頭頸部外科、臨床検査医学、腎臓内科などが参加し、平成29年度からは、学生からの要望と教員の情報共有という観点から原則全診療科共通で使用可能とした。全科使用可能となって1年が経過し、平成29年度からは臨床実習の開始が第4学年の1月となったため、第5学年の1年間と第4学年の4か月間の使用状況について調査を行った。また、平成28年度耳鼻咽喉科・頭頸部外科の日誌のテキストマイニングを行い、eポートフォリオから得られる情報について紹介する。

【方法】 学生の振り返りと担当教員からのフィードバックを診療科ごとに比較した。また、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の日誌をテキストマイニングした。

【結果】 学生の書き込み数は、教員からのフィードバック数に比例していた。また、フィードバックの方法は、一人の教員が担当する場合、複数の教員が交代で行う場合、複数の教員が同時に行う場合など、それぞれの診療科の指導体制で異なっていた。活発に指導が行われている例として、平成28年度耳鼻咽喉科・頭頸部外科の日誌をテキストマイニングした結果、eポートフォリオの振り返りから、実習で学生の印象に残った内容および学生が実習中にいなく気持ちが読み取れることが分かった。